

腹腔鏡下盲腸部分切除を施行した 虫垂粘液嚢腫の3例

たけ ばやし まさ たか きり はら よし まさ
竹 林 正 孝 桐 原 義 昌

キーワード：虫垂粘液嚢腫，腹腔鏡下手術

要 旨

虫垂粘液嚢腫に対して腹腔鏡下盲腸部分切除を施行した3例を経験したので報告する。
【症例1】70歳代，女性，【症例2】80歳代，男性，【症例3】50歳代，女性で3例ともに症状はなく，他疾患の検査や経過観察中の腹部CTで発見された。CTでは39~60 mm径の嚢胞性腫瘍を認め，腫瘍マーカーは正常範囲であった。3例すべてに腹腔鏡下盲腸部分切除術を施行した。病理組織学的にはすべて低異型度を示す嚢胞腺腫であった。本症は良性の腺腫であっても破裂や粘液の漏出により腹膜偽粘液腫となりうるため手術適応がある。術後の病理組織診断結果での追加手術の可能性について術前の十分なインフォームド・コンセントが行われていれば虫垂に局限する虫垂粘液嚢腫に対する腹腔鏡下盲腸部分切除は有用な術式であると思われる。

はじめに

虫垂粘液嚢腫は，虫垂内腔に粘液が貯留し，嚢胞状に腫大した状態であり，比較的稀な疾患である。近年画像診断の進歩に伴い術前診断例が増加している。しかし，良性の腺腫であっても穿破により腹膜偽粘液腫の原因となりうるため，適切な術式の選択が求められる。今回われわれは術前に診断され，腹腔鏡下盲腸部分切除術を施行した3例を経験したので報告する。

症 例

症例1：70歳代，女性
既往歴：脳梗塞
現病歴：他疾患で継時的に腹部CT検査が施行されていた。虫垂根部が嚢胞状に腫脹し，6か月で増大し，内部には点状石灰化を認めた。手術を勧められ入院となった。
検査所見：CEA 2.5 ng/ml，CA19-9 8.9 ng/mlと正常範囲であった。
腹部CT検査（図1）：虫垂根部が40×26 mm大に嚢胞状に腫大し，内部に点状石灰化を認めた。壁の肥厚や不整は認めなかった。